

奥田一重先生と行く 奈良2日間

ほほえみの天平菩薩

～ 南都七大寺を中心に ～



法華寺 十一面観音菩薩像

「旅のお勧め」

正倉院宝物の中で唯一仏像を描いた絵画が残されている。墨絵菩薩像である。一筆の墨で描かれた菩薩は、雲の上から微笑をたたえて、下界の私たちを見守っている。奈良時代、平城京の寺院におかれた菩薩の多くは、微笑みをたたえている。菩薩は、人の世と仏の世界を結ぶ仏である。現実の世で苦しんでいる人々を、安らかな世界へと橋渡しをして導く。それ故、菩薩は人間離れの威厳を持った表情をしてはならない。それは根本的に人ではない。しかし人体を借りて、親しみと美しさと清浄さをもって人々の前に現れる。超人らしさと人間らしさをどのように現すのか。その時代によって菩薩像の表情は変わる。微笑みをたたえた天平の菩薩は、奈良時代の起伏にとんだ、深い、そしてまた自由な天平人たちの構想力の結集といえる。奈良時代は、唐文化と飛鳥時代からの日本の文化が結集し、華やかな天平文化が開く。一方では、疫病、災害、干ばつなど様々な災害が起き、人々が苦しんだ時代。そうした世の中で生まれた天平菩薩の微笑み。奈良時代につくられた菩薩たちは、どのように微笑みの表情をたたえて、人々の苦しみや悩みを受け入れたのか。平城京・南都七大寺の菩薩を中心に訪ね、天平の人々の思いに想像を巡らしてみたい。自分の心の中に留める天平の菩薩が一つでも見つければ、コロナ禍に悩む現代のわれわれにとっても、ひと時の安らぎの時間になるかもしれない。

奥田 一重

【講師 奥田一重先生プロフィール】

奈良市観光大使
元NHK正倉院プロジェクト取材班
統括プロデューサー、
日本記者クラブ会員
NHK文化センター
千葉教室、柏教室にて正倉院に関する講座の講師を務める。



●正倉院に関する著作
「ドキュメント正倉院」日本放送出版協会 / 「正倉院の宝物・ビデオシリーズ」NHKエンタープライズ

日付		スケジュール
1	6/9 (木)	JR奈良駅 (12:25集合) ----- 法華寺 (特別公開 十一面観音菩薩立像 見学) ----- ----- 東大寺 (法華堂・東大寺ミュージアム 見学) ----- 興福寺 (東金堂・国宝館見学) -----ホテル日航奈良 (泊) ※ご夕食のオプションツアーをご用意します (17:20頃)
2	6/10 (金)	ホテル(8:05発)----- 薬師寺 (金堂・大講堂・東院堂・玄奘三蔵院伽藍 等見学) ----- ----- 唐招提寺 (見学) ----- 法隆寺 (西院伽藍内・大宝蔵院・夢殿見学) ----- 中宮寺 ----- -----道の駅 (昼食・買い物) ----- 長谷寺 (特別公開 十面観音像 見学) ----- -----近鉄大和八木駅 (17:00頃 解散予定)

※上記日程はコロナ状況・現地事情・交通事情等により変更になる場合もございます。(見学場所など)

募集要項

- 旅行期間:2022年6月9日(木)～6月10日(金) 1泊2日
- ご旅行代金: **2名1部屋利用:67,000円 / 1名1部屋利用:69,000円**
*上記料金は現地費用となり集合解散場所までの費用(自宅→JR奈良駅/近鉄八木駅→自宅)までの移動交通費は含まれておりません。
- 旅行代金に含まれるもの:ホテル1泊・朝食1回・専用バス代(2日間)・講師費用・添乗員費用
- 募集人数:20名(最少催行人数15名)
- 募集締切日:2022年5月17日(火)*定員になり次第締め切りとなります。
- 添乗員:1名同行致します。(集合地から解散場所まで)
- 宿泊先:ホテル日航奈良 *奈良を代表するホテル、JR奈良駅西口直結の好アクセスで便利な立地です。大浴場もあります。
- 利用予定バス会社:奈良交通 (貸し切り専用バス) ***コロナ対策としてバス座席はゆったりと2席を1名使用にてご用意いたします。**
- 集合解散場所: JR奈良駅西口集合(12:25) / 近鉄大和八木駅解散(17:00頃)
- *最小催行人数に達し催行決定となりましたらお客様にご連絡させていただきます。ツアー催行決定後にお客様ご自身にて集合解散場所までの交通手配(新幹線等)をお願いいたします。
- 想定列車 往路:新幹線のぞみ19号 博多行き 東京駅09:09発→京都駅11:21着 / JRみやこ路快速 奈良行き 京都駅11:33発→JR奈良駅12:18着 (参考) 復路:近鉄橿原線特急 京都行き 近鉄大和八木駅17:25発→近鉄京都駅18:20発 / 新幹線のぞみ46号 東京行き 京都駅18:39→東京駅20:54着
その他JR・新幹線スケジュール等不明な点などございましたら、どうぞお気軽にお問合せください。手配手数料(¥1,100)がかかりますが弊社にてお手配することも可能です。

法華寺 **特別公開 (十一面観音菩薩像)** この時期(6/5～6/10)だけの特別開扉となります。

“天平随一の朱き響”
奈良時代、総国分尼寺として光明皇后によって開かれた。十一面観音菩薩像は光明皇后の発願によって作られた菩薩。美貌の皇后といわれた光明皇后のイメージが湧き出てくるようだ。赤い唇と光る眼が印象的。

東大寺・法華堂 **南都七大寺** **世界遺産**

“天平彫刻の宝庫”
不空羂索観音を中心に十四体の奈良時代の仏像が林立。本尊に不空羂索観音、脇侍に日光・月光菩薩立像。3mを超す巨像がその後には十四体並ぶ。本堂前の八角灯籠には透かし彫りで四体の音声菩薩が天衣を風にはらませながら舞っている。

興福寺 **南都七大寺** **世界遺産**

“慈しみ・恋しみ・喜びの十大弟子”
「十大弟子像」は釈迦の教えを受けた弟子たち。そして入滅後も釈迦の元によって菩薩となり人々を救う。慈しみの富楼那(ふるな)、喜びの須菩提(すぼたい) など。さまざまな像が十体並びます。光明皇后の発願で制作に当たった将軍万福の優れた表現力をかんじます。(天平6年作)

薬師寺 **南都七大寺** **世界遺産**

“最も聖美な観音菩薩”
東院堂「聖観音菩薩」は白鳳時代・8世紀はじめに作られました。人間そのものを写して“仏”を表している。黒漆の厨子の中に立つ姿はまさしく“聖美”です。
金堂「薬師三尊像」の中の日光・月光菩薩像も、その顔は人間の顔から描き出した人間以上の美しさが漂います。

唐招提寺 **世界遺産**

“鑑真が作り出した仏像”
天平宝字3年(759年)鑑真が開いた寺。天平後期の唐の影響を受けた仏像達が並びます。制作も乾漆造りから一本造りへと移ります。
千手観音菩薩は5mを超える巨像、千本の手が残っているのはここ以外にない。
衆宝王菩薩、獅子吼菩薩、大自在王菩薩など中国の影響の強い菩薩も多い。

法隆寺 **南都七大寺** **世界遺産**

“豊かな来世の世界像”
飛鳥時代の仏像群が最も多く大規模に残っている。仏教は「来世の世界像」を豊かに描きだすことにある。法隆寺に残る仏教美術は、古代の人々の思いを具体的に表す。
○金堂:壁面観音菩薩、釈迦三尊像
○五重塔:塑像、塔本塑像
○中宮寺:弥勒菩薩

長谷寺 **特別公開(十面観音像)** この時期(～6月)だけの特別開扉となります。

“丈高な観音菩薩”
最後の寺は新緑に囲まれた寺、花の道を三九九段登って本堂。木造十面観音像は三丈三尺(約10m)の巨大な像。右手に錫杖、左手に華瓶をもつ、いわゆる長谷式観音像として知られ、全国にこの形を模した観音像は多い。最後に本堂の前の懸崖造りの舞台から寺の伽藍や重畳たる山並みを拝見。